

■裏松光世(固禪) 宝暦事件に連座、長期に逼塞の間、平安内裏の考証に没頭、復古図の光格天皇登場で、一躍時の人になった。
うらまつみつよ(こぜん)
・・・・・・1736= “今人まろ”と呼ばれた優れた歌人前内大臣鳥丸光栄の末子に生まれる。

徳川吉宗隠居1745= 9歳：

義経千本桜・1747=11歳：前権中納言裏松益光の養子となり家を継ぐ。2年前、益光の嫡子左中弁祐光が死去したためと考えられる。
・・・・・・1749=13歳：元服。

徳川吉宗没・1751=15歳：

山脇東洋解剖1754=18歳：

宝暦事件・・1758=22歳：蔵人に昇り、左少弁になるが、_神道家竹内式部が京都所司代に拘束され、門人の一人として出仕を止められ、所職を辞した。この事件は、竹内式部が反幕府的な思想を広めたとして、関白近衛内前らが幕府に訴え、彼に教えを受けていた公家たちが、朝廷から処分を受けており、式部が桃園天皇に「日本書紀」神代巻を進講することなどに対する、関白たちの反感が根底にあったといわれる。

大岡忠光没・1760=24歳：永塾居を命ぜられ、四辻実長の子(謙光)を養子とし、_落飾して固禪と称すると、
・・・・・・1763=27歳：

錦絵始・・1765=29歳：この頃、*流布していた高橋宗直の「紫宸・清涼二殿の図とその考証」に触発され、禁中全体について考証しようと思ひ立ち、

桂家諸大夫尾崎積興から、彼の編んだ装束等についての書物を借り出したり、代々内膳司の濱島等庭から、膳調進ほかの書物を借り出したりして、_平安時代の内裏の考証を中心に、研究に没頭、

御蔭参流行・1771=35歳：濱島等庭の師で、文献学・目録学の祖ともいわれる藤貞幹と意気投合、家臣になって協力して貰うことになり、濱島、尾崎積興も一緒になって、「大内裏図考証」の作成の準備をして行く。

田沼意次老中1772=36歳：

🚢船蝦夷来 1778=42歳：_出歩くことを許された直後、
源内獄中死・1779=43歳：_後桃園天皇が急逝し、傍流の閑院宮典仁親王の第六王子が、踐祚し、光格天皇になる。

・・・・・・1781=45歳：_桓武天皇の平安遷都から後水尾天皇までの、皇居・行幸先・仙洞御所などの変遷を年表に作成し始め、藤貞幹のお蔭もあってか、徐々に故実家としての評価を得るようになっていたらしく、

蘭学階梯・・1783=47歳：*「大内裏図考証」の執筆を開始、自ら、指図(平面図)も次々作成、
意知刺殺事件1784=48歳：_「皇居年表」正・続各5冊を、撰政九条尚美に献上。それまでの業績が、公家社会においても認められ、

田沼意次失脚1786=50歳：

寛政改革始・1787=51歳：_図と一体になった「大内裏図考証」の一次稿本がまとまった直後、
・・・・・・1788=52歳：*応仁の乱以来の大惨事といわれる京都大火により、内裏も焼亡。時の光格天皇はまだ若かったが、すでに、復古再興をめざす意志が明確であったことから、平安内裏の古制に則って造営しようとする動きが始まり、まさにタイミング良く、許されて、参内。朝廷より内裏造営に関して諮問を行なうとの命を受ける(このとき幕府の老中松平定信が固禪を抜擢し、定信が内裏再建を主導したという通説があるが、実態は朝廷が定信に強く働きかけたものである)。以後、プレーンのようになって、しばしば参内して、諮問に応じ、膨大な史料を次々と献上し、それらの目録を作成、ついでに、関白鷹司輔平の新造第の指図を作成するのに合わせて、著した「院官及私第図」は、のちに、寝殿造りの研究が本格化する端緒になる。

異学の禁・・1790=54歳：_調度品制作図まで作成して、新造内裏が完成、紫宸殿・清涼殿などの主要部分については平安の旧儀に則った固禪の復原案に依拠、天皇の望み通りになったのである。光格天皇還御の華麗な行列が人々に強烈な印象を与え、多くの行列図が遺る。これを契機に、公家の間で、空前の復古ブームが起こり、儀式・故実の權威として朝廷や摂関などからの諮問に答えるとともに、朝儀を学ぶ公家たちの指南役となって行く。

👉クスマン来日・1792=56歳：新内裏の完成後、光格天皇は感謝の気持ちから、將軍徳川家斉に漢詩を賜ったが、異例のことであつたらしく、松平定信の顧問の柴野栗山から問い合わせを受けた藤貞幹から聞かれ、記憶にないと返事している。また、藤貞幹は、立原翠軒に宛てた手紙のなかで、「固禪は、立后御用も済み、最近は堂上地下ともに会談が多く多忙である」と書いている。

松平定信引退1793=57歳：

👉ワタナベ来日・1794=58歳：欣子内親王の立后には、2年前の準備から、細々と対応。朝廷から、_「大内裏図考証」献上を命ぜられ、

昌平饗始・・1797=61歳：清書して_「大内裏図考証」30巻50冊を朝廷に献上。さらに、校訂を続け、

古事記伝・・1798=62歳：_内裏造営以来の御用勤仕と「大内裏図考証」献上の功により、朝廷より生涯金30斤下賜を仰下され、

東蝦夷直轄始1799=63歳：

👉👉👉来航・1804=68歳：*三次稿本ができて、まもなく、没した。

吉田早苗(代表)「近世公家社会における故実研究の政治的社会的意義に関する研究」報告書、藤田覚「光格天皇 自身を後にし天下万民を先とし」、